

市教育会教室内で会費徴収

「誤解あれば見直し協議」

市議会9月定例会は19日、本会議を再開し、10人が個人質問した。市内の公立学校の教員や保護者らでつくる任意団体「名古屋市教育会」（東区泉1）の活動として、教室内で教員が児童や生徒を通して保護者に入会案内を配り、会費の現金を集めている慣習について、坪田知広教育長は「保護者の誤解を生じているのであれば、改めていくよう市教育会と協議していく」と述べた。

（福本英司、四方さつき）

教育長答弁

市議会 個人質問

この慣習では、市教育会から依頼を受けた教員が教室内で児童や生徒に、強制ではないことを記した勧誘チラシを配って、保護者に渡るようにしている。

坪田教育長は答弁で、市

教育会が児童や生徒の支援活動や、教職員やPTA会員の研究に助成するなど、市の教育活動の充実に関わる取り組みをしているとの認識を示した。各学校が教育活動に寄与しているか否か判断し、入会申込書を配布しているとも説明し、「入会は自由意思に基づくが、学校からの案内の仕方

や教職員の関わり方によって、誤解を生じているのであれば市教育会と協議する」と話した。

会員の募集方法の見直しで教職員の負担軽減につ

ながるとの指摘に対しては「軽減に向けた方策などを検討してもらおうよう市教育会と協議する」と答え

た。質問した中川敦史議員（減税）は「保護者の中には、市教育会が市教育委員

会の中の組織であるような誤解をしている方も少なくない」と指摘。市教委の金品と推薦名簿の授受問題を踏まえ、「授受問題で指摘されたように、前例踏襲はもう通用しないと認識したはずだ」と強調した。

任意団体「名古屋市教育会」の事務局が入る市教育館＝東区泉1で

